

2026年7月19日(日)

日本基督教団 大宮教会
大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

聖霊降臨節第9主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:40

＜神の招き＞

前 奏 私は呼ぶ、主キリストよ バッハ

招きの詞 詩編103:1~5

交読詩編 18:26~35

讃美歌 11

＜神の言葉＞

聖 書 詩編110:1~7
(旧約 聖書協会共同訳 935 頁)
ヘブライ人への手紙7:20~28
(新約 聖書協会共同訳 399 頁)

祈 禱
讃美歌 58
説 教 「主イエスは永遠に生きている」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃美歌 518

＜神への応答＞

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告②

頌 栄 28

派遣と祝福

後 奏 我が心の切なる喜び ブラームス

宣教報告①

夕 礼 拝 18:00~19:00

＜神の招き＞

前 奏 天にまします我らの父よ テレマン

招きの詞 詩編103:1~5

交読詩編 18:26~35

讃美歌 120

＜神の言葉＞

聖 書 詩編107:23~32
(旧約 聖書協会共同訳 931 頁)
ルカによる福音書8:40~56
(新約 聖書協会共同訳 119 頁)

祈 禱
讃美歌 440
説 教 「恐れるな、ただ信じなさい」
佐藤潤伝道師

祈 禱
黙 想
讃美歌 513

＜神への応答＞

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 26

派遣と祝福

後 奏 ラルゴ イ短調 トラヴェース

今週の御言葉

しかし、イエスは永遠に生きているので、変わる
ことのない祭司職を持っておられるのです。それ
で、ご自分を通して神に近づく人々を、完全に救
うことがおできになります。この方は常に生きて
いて、彼らのために執り成しておられるからで
す。(ヘブライ人への手紙7:24~25)

次週の礼拝(7月26日)

① 9:00、② 10:30
説教「光の子として歩む」
佐藤潤伝道師
イザヤ書60:1~5
エフェソの信徒への手紙5:6~20
交読詩編13:1~6
讃美歌149、519、502、26

サテライトチャーチ植竹礼拝・夕礼拝
10:30、☒ 18:00
説教「主イエスは良い羊飼ひ」熊江秀一牧師
エゼキエル書34:23~31、
ヨハネによる福音書10:11~21
交読詩編13:1~6
讃美歌13、59、459、28

ワーシップ(賛美礼拝) 14:00~15:00

説教:「真理はあなたがたを自由にする」熊江秀一牧師
ヨハネによる福音書8:31~32 [司式]大熊長老
賛美:ここから、どんな時でも、愛しています、感謝の心、主イエスと歩く道、主の祈り、
主イエス神の愛、向日葵

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 御言葉に聴く群れとして歩める為に
4. 教会学校の為に
5. 関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に
6. 関東教区の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 伊勢崎教会 甘楽教会 太田八幡教会

◇先週の説教より「神に近づく希望」ヘブライ人への手紙7章1～19節、創世記14章17～20節

熊江秀一牧師

「もっと優れた希望がもたらされました。私たちは、この希望によって神に近づくのです」。律法に勝るもっと優れた希望、それは大祭司キリストの希望である。この優れた希望の証しのため、アブラハムが受けた祝福が語られる。信仰の父アブラハムの生涯は平和に生きる歩みであった。甥のロト一族の羊飼いと争いの際、土地選択の優先権をロトに与え、対立をさけた。ただ一度の戦いは、ロトを救うための戦いであった。その時、少人数で「王たちを打ち破り」、ロトを助け、財産を取り返した。しかしアブラハムは戦利品を王たちに返した。それは平和を造り出す姿であった。なぜアブラハムはそのような歩みをできたのか。それはメルキデゼクの祝福があったからである。メルキデゼクは「義」と「平和」の王であった。しかもいと高き神の祭司として、神と人との間を執り成した。彼は「神の子に似たもの」「永遠に祭司」であった。

このメルキデゼクがアブラハムを祝福した。祝福は祈願ではなく宣言である。アブラハムはメルキデゼクの祝福を受け、平和と信仰の生涯を歩んだ。そして今、アブラハムの子孫である私たちは、まことの神の子、大祭司キリストの祝福が与えられている。メルキデゼクは、律法のレビ族による祭司制度にまさる祭司である。律法ではなし得なかった救いを実現するために、神はメルキデゼクのような永遠の大祭司としてイエス・キリストを立てた。メルキデゼクがアブラハムを祝福した時、パンとぶどう酒というキリストの贖いの象徴を持ってやって来た。永遠の大祭司であるイエス・キリストも自らの十字架の贖いを持って私たちのもとに来て、祝福する。旧約のまさるもっと優れた希望によって、祝福を受け、大胆に神に近づこう。

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。